

科目名	成人・老年看護方法Ⅲ（老年） Adult & Gerontological Nursing Ⅲ			担当教員 (研究室番号)	清水 律子 (506) 田端 真 (308) 竹村 和誠 (308)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	2年次 後期	科目 区分	専門科目・生涯看護学			選択 区分	必修	単位数 (時間)	1(15)	授業 形態	演習	科目等 履修生	否
												オプンクラス	否
科目 目的	高齢者のストレングスを活かした看護実践を考えるために、口腔衛生や排泄介助など高齢者の生活機能を維持・向上するための看護について理解を深める。また、老年期に多い健康障害が及ぼす高齢者の生活機能の変化や支援について考える。さらに、高齢者を対象とした地域包括ケアシステムや災害看護活動についても考える機会とする。												
ディプロマ・ポリシー (DP)	主要なDP	E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。 (思考・判断)											
	関連する DP	C 多様な考え方や文化的背景を持つ人々の特徴に応じて、自らの看護活動の必要性や方法を説明するためのコミュニケーション能力を有している。(技能・表現)											
到達 目標	1. 口腔衛生や排泄介助など高齢者の生活機能を維持・向上するための看護について特徴を説明できる。 2. 入院した高齢者の特徴と、状況に応じて提供すべき看護について概略を説明できる。 3. 脳・神経疾患、骨折、肺炎、心疾患など老年期に多い健康障害の特徴や看護について説明できる。 4. 高齢者の災害時の看護や感染症対策について説明できる。												
成績評価方法 (基準)		試験（85％）、レポート課題（15％）											
再試験の有無と 基準等		科目の可否結果で不合格となった者には、当該学生からの申請により再試験を実施する。再試験は筆記試験とし、それまでのレポート課題や出席状況は再試験の評価に加味しない。											
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論（医学書院）											
参考書等		講義の中で必要時紹介します。											
学生の主体性を伸ばす ための教育方法と学生 への期待		演習でグループワークやディスカッションの時間を設けます。ここでの学習は臨地実習につながる内容ですので、実践でどのように活用できるかを意識し、重要な点について主体的に学習し整理しておいてください。											
備考		老年看護学概論を修得していないと履修できません。 成人・老年看護方法Ⅳ・Ⅴ・Ⅵの先修条件となっています。											
回	学習項目				学習内容						主担当 教員	授業 方法	
1回	高齢者の日常生活活動① 高齢者総合的機能評価、活動と休息				高齢者とのコミュニケーションの特徴、高齢者総合的機能評価の概要、生活リズムの特徴について学ぶ。（グループ・ディスカッションを含む）						清水	演習	
2回	高齢者の日常生活活動② 高齢者の食生活の特徴と嚥下障害				高齢者の食事・食生活の特徴や、嚥下障害及び胃瘻の特徴と看護について学ぶ。また、口腔ケアなど老年期における歯科保健活動、誤嚥性肺炎について学ぶ。（グループ・ディスカッションを含む）						清水	演習	
3回	高齢者の日常生活活動③ 高齢者の排泄障害と皮膚のトラブル				高齢者の排泄の特徴や、排泄障害及び脱水の特徴と看護について学ぶ。また、高齢者の清潔の意義や、高齢者特有の皮膚トラブルについて学ぶ。（グループ・ディスカッションを含む）						清水	演習	
4回	入院した高齢者の特徴と看護				高齢者に対する入院・検査・手術・退院時の看護、薬物療法の特徴について学ぶ。						田端	講義	
5回	老年期に多い健康障害と看護①				高齢者に多くみられる運動器の疾患（骨粗鬆症・大腿骨頭部骨折・変形性膝関節症など）、転倒およびその看護について学ぶ。						竹村	講義	
6回	老年期に多い健康障害と看護②				高齢者に多くみられる脳・神経疾患・心疾患（脳卒中・パーキンソン病・うつ・心不全など）およびその看護について学ぶ。						田端	講義	
7回	高齢者の生活における地域包括ケアシステムと看護の役割				高齢者が可能な限り自分らしく最期まで住み慣れた地域で生活するための包括的な支援やサービス提供体制を捉え、看護の役割を学ぶ。						竹村	演習	
8回	高齢者への災害看護活動・感染症対策				災害時の高齢者の健康問題や日常生活問題を捉え、災害看護を学ぶ。また、結核等、高齢者感染症の感染対策や支援の特徴を学ぶ。						清水	演習	

学 習 課 題	
1回目課題（事前）：高齢者とのコミュニケーションについて自己学習する。	（事後）：高齢者総合的機能評価の特徴と主に使用されるスケールについて整理する。
2回目課題（事前）：嚥下訓練と口腔ケアの方法を自己学習し提出する。（配点10点：レポート課題）	
（事後）：グループワークを通して学んだ内容を整理する。	
3回目課題（事前）：高齢者が脱水や褥瘡を起こしやすい理由について自己学習する。	（事後）：高齢者に多くみられる尿失禁の特徴について整理する。
4回目課題（事前）：身体疾患の治療を行う医療機関の役割と特徴について自己学習する。	
（事後）：入院や治療が高齢者に及ぼす影響に対して看護としてなすべきことについてまとめる。	
5回目課題（事前）：大腿骨頭部骨折・変形性膝関節症など運動器の疾患について高齢者の特徴をふまえて自己学習する。	（事後）：運動器の疾患を持つ高齢者への看護の方法と転倒リスクの要因や転倒予防について整理する。
6回目課題（事前）：脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、うつ、心不全について自己学習する。	
（事後）：脳・神経疾患・心疾患を持つ高齢者への看護の方法を整理する。	
7回目課題（事前）：高齢者の生活における地域包括ケアシステムについて自己学習する。	（事後）：高齢者の生活における地域包括ケアシステムの学びを整理する。
8回目課題（事前）：高齢者への災害看護活動の実態を調べる。	
（事後）：高齢者に多い感染症について自己学習し提出する。（配点5点：レポート課題）	
（事後）：高齢者への災害看護の学びを整理する。	

実務経験を活かした教育の取組
・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。